

主題名	楽しいクラスをつくる	教科書	p. 38～41
教材名	8 「えがおいっぱい」	指導月	6月ごろ
内容項目	C よりよい学校生活、集団生活の充実		
ねらい	あおいのクラスの「えがおいっぱいせんげん」について話し合うことをとおして、笑顔がいっぱいのクラスのように気づき、みんなで協力し合って楽しいクラスをつくらうとする心情を育てる。		
	児童の学習活動、発問（○主な発問・グレーの部分中心発問）	指導上の留意点など	
導入	1. 楽しいクラスについて考える。 ○クラスが楽しいと思えるのは、どんなときですか。	* 終末の発問と比較させると、道徳的価値の理解へとつながる。	
展開	2. 『「えがおいっぱい」』を読んで、みんなで協力し合って楽しいクラスをつくることの大切さについて考える。 〔考えよう〕 ① 休み時間に、けんかをする男の子たちや、こそこそおしゃべりをする女の子たちを見て、あおいはどのようなことを思っていたのか、考えて話し合しましょう。 ② あおいは学級会で、どのようなことを思いながら「『えがおいっぱい』になっていないと思います。」と言ったのでしょうか。 3. みんなで協力し合って楽しい学級をつくることの大切さについて、自分のこととして考える。 〔深めよう〕 ③ 自分たちのクラスのよいところはどのようなところですか。	* 「学級目標は、どんな思いで立てられたのでしょうか。」と補助的に問う。 * 学級目標は、望ましい人間関係を形成し、集団としてよりよい学級づくりのために、みんなで知恵を出し合って作ったものであることを再認識させたい。 * 所属する集団に直接関わるような問題はなかなか切り出しにくいものである。しかし、あおいがそれでも発言するにいたった思い（勇気や真摯な気持ち）に共感させたい。 * 導入の発問での児童個人としての満足感から、充実した集団への意識の高まりに視点が向いたことを確認したい。	
終末	4. 本時の学習を振り返る。 ○今日の学習で学んだことを振り返りましょう。	* 集団生活の充実の大切さを再認識し、さらによりよいものにしようとするクラス全体で話し合った意義を理解させる。	
つなげる	5. 日常生活への発展を考える。 〔つなげよう〕 ④ 自分たちのクラスを「笑顔いっぱいのクラス」にするためにはどうすればよいか、考えてみましょう。また、みんなで意見を出し合って、書き出してみましょう。	* 自分事として捉えさせ、考えさせることで、児童一人一人が主体性をもちながらこれからのよりよい学校生活実現への意欲を高められるようにしたい。	
評価の視点	① 笑顔がいっぱいのクラスのように気づき、みんなで協力し合って楽しいクラスや学校をつくっていくことについて、多面的・多角的に考えることができているか。 ② 楽しいクラスや学校をみんなで協力し合ってつくっていくことの大切さについて、自分との関わりで考えることができているか。		
.....			